

昨年度を振り返って

理事長 長谷川 憲 治

昨年度を振り返りますと、充実した1年であったと言っても良いのではないかと思います。一昨年度は期首から電話相談活動が休止という山形いのちの電話始まって以来の異例なスタートとなりましたが、昨年度はコロナ禍という状態に変わりは無かったものの、相談員の方々の高い志と使命感、事務局員の皆さんの懸命なコロナ対策活動により、1年間休まずに活動を続ける事が出来ました。相談員の皆さん、事務局員の皆さんに深く敬意を表しますと共に、心から感謝申し上げます。

その結果、暦年での電話相談受信件数は7,480件となり、昨年度の6,464件はもとより一昨年度の7,240件をも上回る結果となりました。加えて、研修会や会議等も少しずつ開催出来るようになりましたし、後援会の目玉事業であります「チャリティーコンサート」も3年ぶりに開催する事が出来ました。

課題であります相談員の確保も、4月29日に新たに8名の相談員が認定を受けられ合計99名となりました。現在研修中の第25期生も7名おられ、念願であった100名体制も視野に入ってきました。来年度中には是非達成したいものと願っております。

又、この厳しい経済環境にも拘わらず、「いのちの電話」に寄付をして下さる企業や団体が増えてきております。「いのちの電話」の意義へのご理解が進んでいる表れかと思いますが、二重の意味で嬉しく感謝申し上げます。更に、前述したチャリティーコンサートの収益金955,771円のご寄付も頂きましたし、お陰様で建設準備積立金に3,000,000円を積み立てる事が出来ました。

今年度は引き続いてのコロナ対策や相談員の募集と充実、加えて老朽化した事務局問題への対応等課題は山積しておりますが、コロナ禍での自粛生活で孤立しておられる方、困窮しておられる方も増えてきておりますし、残念ながら自殺者も増えております。「山形いのちの電話」の意義・役割は益々高まると思います。これからも「悩んでおられる人々に少しでも寄り添い、お役に立てれば」との想いで活動を続けて参りますので、変わらぬご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

いのちの電話の目的

いのちの電話は、孤独の中にあつて、時には精神的危機に直面し、自殺をはじめ、助けと励ましを求めている一人一人と、主に「電話」という手段で対話することを目的とする。